

現地理解のための副読本制作にあたって

— 全面改訂した「シンガポールを『知る・学ぶ』20話」の副読本 —

前シンガポール日本人学校 教頭

大阪府東大阪市立菱屋西小学校 教頭 河原 紀彦

キーワード：現地理解、副読本、シンガポールを知る資料集

1. はじめに

平成18年4月～平成21年3月までの3カ年、シンガポール日本人学校中学部に教頭として赴任した。在外教育施設への派遣は、2回目であった。今回は派遣前からひとつのことを成し遂げる目的をもっていった。それは現地を知る「副読本」の制作である。その内容は中学生として社会科の授業のみならず他の教科でも使える副読本を制作しようとする強い思いがあった。そして赴任してその思いはますます強くなった。その理由は次の4点で、それが制作への目的ともなった。

①現地理解にあまり関心をもたない保護者を含めた子ども達に、現地（シンガポール）に目を向ける必要性を感じてもらう。その方法として④の手法をとった。

②かつての社会科資料集としてあった副読本は、15年前に改訂されたままで、データ等が古く、現在のシンガポールを知るにはあまり役に立たなかった。特にシンガポールは21世紀になって急速に発展したアジアの先進国である。そのシンガポールを理解するには、全面改訂の必要性があった。

③また15年前の社会科資料集は歴史的部分の記述が抽象的で、しかも少ないため、シンガポールの国の成り立ちや変遷がわかりにくい。特にシンガポールの19世紀以降の歴史的分野は日本との関係、帝国主義下でのアジアの動向、そして冷戦体制下での日本を含めたアジアを理解するには必要不可欠な部分である。そのため19世紀以降の歴史的内容を具体的、そしてかなり詳細に記述する必要がある。（かつての社会科資料集は戦前のシンガポールにおける日本人の活躍等の内容は充実していたので新しい副読本では割愛した。）

④副読本は現地を知る、理解することだけを目的に制作すると、単なる現地の知識理解のみとなる。やはり日本、世界との関連性ある事象等を取り上げることで、アジア、世界という全般的な縦横理解ができるようになる。すなわちこれがグローバルな視点で日本、世界の政治、経済、歴史を理解することになる。

以上の4つの理由を目的に、20項目の内容を設定して制作した。

2. シンガポールを『知る・学ぶ』20話の内容と概略

2009年1月末に刊行したシンガポールを『知る・学ぶ』20話（A4版194ページ）の項目と内容概略は次の通りである。

1. シンガポールを知る必修事項

シンガポールの「国旗、国歌」は何を意味するのか。「シンガポールの気候」はどのような特徴があるのか。毎日の生活にかかせない「シンガポールの水と食糧」は一体どうなっているのか等を簡単にまとめている。

2. ラッフルズはイギリス政府にとっては悪者？それとも英雄？

ラッフルズがシンガポールに来航しなければならなかった理由が、19世紀当時の帝国主義にふれながら理解できる。またフランスのナポレオンが登場しなかったらシンガポールという国がなかったかもしれないという理由もわかる。



3. シンガポールを建国したのはラッフルズって本当なの？

「現在のシンガポールの国の土台を築いたのはラッフルズではなかった」では一体誰が築いたの？この答えがこの項目にある。そして19世紀のシンガポールという地はどのような居住地だったのかを知ることができる。

4. シンガポール人が学ぶ人物史ってどんな人

シンガポールという国は19世紀にはなかった。シンガポールは世界各地から様々な民族が来航して居住した島であるからである。ではその島で人々はどのような仕事、生活をして生きてきたのだろうか。その人々の生活がわかる。

5. イギリスの海峡植民地を日本人はどう見たのだろうか？

1873年8月8日、シンガポールに日本人の船が寄港した。そこで日本人が見たのはイギリスによって着々と進められるシンガポールの建国。でもそこには様々な課題と問題が発生していた。それを見た日本人はどう思ったのだろうか。後の日本人のアジアを見る目にも影響を与えたアジア観がわかる。

6. シンガポール人は日本の侵略行為をどう学んでいるのか？

日本がなぜ中国を含めた東アジアを侵略したのか知ってもらいたい項目である。その内容をシンガポールの中学生が学ぶ教科書を中心にまとめてみた。その理由は日本の歴史認識からアジアを見るのではなく、シンガポールというアジアの歴史認識から日本を含めたアジアを見ると、こうなるのだということを知ってほしいからである。その違いがよく理解できるように随所に日本の中学の歴史教科書の内容を取り入れている。内容は読み物的な文章ではないが、シンガポール人が日本をどう理解しているのかがわかる手がかりになる。

7. 12月8日、日本軍はなぜ真珠湾とシンガポールを攻撃したの？

シンガポールの歴史教科書は様々な角度から太平洋戦争が起こった原因を考えさせようとしている。その考えにそって記述された内容は、「日本のアジアへの侵略行為は仕方がなかった」という受け取り方にもなるような記述である。しかしそれがなぜ太平洋戦争を引き起こされたのかを考えさせる手だてにもなっている。この手だてがわかるように、それぞれの段落ごとに「考えよう！」コーナーを入れた。しっかりと考えることでシンガポールの教科書が何をねらいとしているのかを理解してほしい。またこの単元では、太平洋戦争勃発はこの時点で止めることができたのではないだろうかと考えることもできる。

8. シンガポールでの日本の統治何がいけなかったの？

日本がシンガポールをどのように攻撃し、そして統治したのかという内容である。その内容は日本の統治が詳細に展示されているOld Ford Factoryといった博物館などの資料を使用したのではなく、シンガポールの小学生、中学生が学ぶ教科書の内容等に限定した。その理由は、教科書を通じて学ぶ日本の統治内容はシンガポール人としては最低限知っておくべき内容だと考えられる。よってシンガポール人が最低限知っている日本の統治内容を、シンガポールに住んでいる日本人が知らないというのは間違っている。シンガポールと友好関係を結ぶにあたって、日本人として日本の統治内容は最低限知っておいてほしいという思いから書いた話である。

9. 原爆投下は正しかったと考えているシンガポール人？

シンガポールは被爆国ではない。でも小学校、中学校の歴史教科書には「ヒロシマ・ナガサキの原爆」は大きく取り上げている。その理由は「核爆弾は人類への脅威」だからである。その考えからヒロシマ・ナガサキの原爆から核の必要性の是非を学ばせようとしている。その内容は被爆国日本の教科書より詳細であるだけでなく、子ども達が深く考えてみようとする記述内容に工夫されている。その工夫内容から核の是非を考えてもらうために紹介した。その工夫がよく理解できるようにと記述方法は授業内容の分析のような書き方をした。

10. 戦後の冷戦体制下でシンガポールが直面、そして選択した道とは何？

この単元から以降は、シンガポールが国として成立していく過程である。しかしその過程は前途多難であった。第二次世界大戦後、アジアでは多くの国が植民地支配から独立していく中で、シンガポールは独立できなかった。

その主な理由は戦後の冷戦体制と暴動だったのである。戦後のシンガポールに降りかかる苦難の歴史を、世界史的規模の視野で考え、理解してほしい。

11. 国旗と国歌へのシンガポール人の思いとは何？

1950年代は、シンガポールが国として成立するための大きな出来事が多くあった。その一つは、シンガポールのローカル人がイギリスから政治権力を譲り受けたことである。それはイギリスから与えられたものではなく、ローカル人自らが勝ち取ったものでもあった。その記念すべき日が1959年6月3日なのである。この1950年代の出来事があったからこそ今のシンガポールという国が成立したとも言える。ではその出来事とは一体何だったのかを知ってほしい。

12. 1965年8月9日はシンガポールの運命の日であった！

8月9日はシンガポールのナショナルデーである。その日は決して独立を喜ぶ日ではない。では一体何の日なのだろうか？またマレーシアの国旗はなぜ星と横線が14もあるのだろうか？その8月9日の日と、マレーシアの国旗から現在のシンガポールの国の出発点がわかる。

13. シンガポールが世界に誇る住宅政策とは何？

13話から現在のシンガポールの国造りを説明している。まず13話は、シンガポールの住宅政策である。人口密度世界第2位のシンガポールにおいて、快適な住環境を整えることは国造りの重要な要素である。シンガポールの国民全員を満足させる住環境とはいったい何だろうか。またシンガポールの住宅政策は住環境を整えるだけが目的ではない。多民族国家としてのシンガポールが取り組まなければならない民族宥和にも、住宅政策の目的があるのである。それとは一体何なのだろうか。

14. 国家予算の20%を占める教育予算、なぜそれほど重要な？

シンガポールではなぜ英語が公用語なのだろうか？多民族国家であるのになぜ民族の対立がないのだろうか？シンガポールはどのような国造りをめざしているのだろうか？以上のことはシンガポールの教育を知ればよくわかる。

15. シンガポールを発展させたのは何産業？

「シンガポールの産業は何？」と聞かれたらどう答えます。「シンガポールで生産しているモノってあるの？」と聞き返したくなるのではないだろうか。しかしシンガポールにはグローバルな産業は存在するし、これからもっとグローバル化をめざして発展しようとしている。ではその産業とは何なのだろうか？

16. 国会の多数を占める人民行動党が選ばれる選挙とは？

シンガポールの政治のしくみは日本と同じ三権分立である。では選挙制度はどうなっているのだろうか？日本と同じ？それとも大統領がいるからアメリカと同じなのか？日本の政治のしくみや選挙制度などと比べながら考えるとシンガポールの政治のしくみがよくわかる。

17. シンガポールにとって少子高齢化は国を滅ぼす大問題？

少子高齢化社会を迎える日本も含めて、これからは「福祉を優先すべきか？」それとも「経済を優先すべきか？」大きな岐路に立たされている。国民にとっては「福祉も充実させながら経済も発展させてほしい」が希望だろう。ではシンガポールでは、この少子高齢化をどのように国として対応しようとしているのだろうか。シンガポールでの考えや政策を知ることで、日本が直面しつつある少子高齢化問題を考えてみる。

18. シンガポールには民族差別はないの？

シンガポールは多民族国家である。世界のある地域では民族、宗教の違いから戦争になった国もある。しかしシンガポールでは民族の違いで衝突することなく、全ての民族が調和して暮らしている。それはどうしてなのだろうか？シンガポールの民族宥和政策を知ることで世界での民族紛争解決や、日本の差別事象解決への取り組みも考えてほしい。

19. シンガポールの国の守りはどうなっているの？

シンガポールは小さな国である。しかも人口は約400万人しかいない。このような国を守るためにシンガポールが打ち出した防衛は、国民全員が国を守るために立ち上がるトータルディフェンスである。それは一体何なのだろうか。

20. シンガポールの環境保全はどうなっているの？

シンガポールの環境対策はどのように行われているのだろうか？ チューインガムにも規制がある国なので、環境対策も厳しい罰則規定を設けて環境保全に努めているのだろうか。それとも環境などお構いなしで環境汚染をしているのだろうか。環境先進国日本からシンガポールの環境保全を考えてみる。

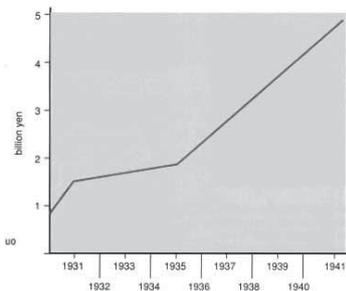
3. 授業で使える副教材

この副読本の特徴は、日本の教科書等を使う際に深く理解、そして興味・関心をもって考えられるように工夫したのは前述した通りである。紙面の都合上その内容を全部掲載できないのが残念であるが、その一部分「7. 12月8日、日本軍はなぜ真珠湾とシンガポールを攻撃したの？」(2段落部分のみ)を紹介したい。

2. 日本にとって満州は必要か

日本が中国へと侵略をはじめた理由は経済問題であった(詳細は「6. シンガポール人は日本の侵略行為をどう学んでいるのか?」を参照)。日本は山が多く、食料を生産するための農地は少ししかなかった。また石炭、鉄といった資源もなかった。1920年になると、日本の人口は急速に増えた結果、食料が不足し、失業者が増えた。1920年までは、日本商品を売ることで、外国から原料と食料を買うという通商関係がうまく機能していたため、食料不足と失業問題はうまく処理できていた。特にアメリカは日本の絹の最大の取引先で、日本の200万の人々は、絹の輸出で生計を営んでいた。

1929年の世界恐慌の影響で、1931年には日本の工場の半分は倒産し、100万人の小作農も仕事を失い貧しくなった。軍隊はその打開策として「もっと土地が必要だ。もっと資源が必要だ、日本商品のための市場が必要だ。これは日本の隣の国である中国の一部を征服することによって実現することができる」と考えた。しかし世界恐慌後イギリス、フランスなどは高い関税をかけるなどして、日本製品をシャットアウトするブロック経済圏をつくった。この保護貿易化は日本にとって大きな痛手となり、日本もその経済圏に対抗するために満州、朝鮮、台湾といった円ブロック圏を形成したのである。特に満州は、これからの日本経済が発展していくためには最重要地域であった。これは年々増加傾向にある満州への投資額(グラフ①)と満州から産出される資源の豊かさ(表②)からわかる。



グラフ① 1930年～1941年に日本が満州へ投資した金額(円)

Territory	Product
Okinawa	labour, sugar
Hokkaido	labour (free and slaves), rice, minerals
Taiwan	sugar, rice
Manchukuo	rice, oil, other grains
Other lands in Southeast Asia	rubber, oil

表② 日本が支配下においていた地域から主に産出された物

考えよう!

この円ブロック圏形成のために、日本軍は1931年満州事変を起こし、そして翌年の1932年に満州国を建国した。日本にとって満州は必要だったのだろうか？